第4学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 「いろいろな友達と過ごす良さ」
- 2 教材名 「あと一人だれにしよう」

(出典:千葉市教育委員会 「千葉市に生きる」 改作)

B 【友情・信頼】

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値や指導内容について

本主題で中心となる道徳的価値は、学習指導要領のB—4「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」である。児童にとって友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、共に学んだり遊んだりすることを通して互いに影響しあって構築されていくものである。

中学年においては、活動範囲が広がることで集団との関わりも増えていく。気の合う友達同士で仲間を作り、自分たちの世界を確保し楽しもうとする傾向がある。しかし、気心の知れた友達としか関わらなかったり自分の利害にこだわることで友達とのトラブルを引き起こしたりすることも少なくない。

そこで本主題を通して、友達のよさを発見し友達のことを理解するよさや、友達とのよりよい関係の 在り方について考えさせていきたい。そして、たくさんの友達と関わっていこうとする心情を養ってい きたいと考え、本主題を設定した。

(2) 教材について

本教材「あと一人だれにしよう」では、物語前段に、主人公であるぼくと仲良しな友達のまさおくんとが、校外学習で一緒に野外クイズをする友達をあと一人、誰にするかに悩んでいる場面が描かれている。グループを組めずに一人余っている太一君は、ふらふらと勝手に行動してしまうことから誰からも声をかけてもらいないでいる。以前、友達ができず、悲しい気持ちを経験しているぼくは、悩んだ末に、物語後段で同じグループに誘うことに決めた。誘ってもらえた太一君はとても喜び、笑顔でクイズに取り組んだ。また、太一君のふらふらと歩く癖も、いろいろな人に話しかけるきっかけになり、クイズのヒントをもらうことに繋がった。順位は良くなかったが、3人とも笑顔で話をしながら学校に帰ったというお話である。今回の授業では、太一君と活動を共にしたぼくの心情の変化を話し合い、友情・信頼の価値について考えを深めていく。そのため、初め、ぼくが太一君を仲間に入れることに否定的な感情を抱いている方が、太一君と活動した際の心情の変化が大きくなるのではないかと考え、教材を改作した。

本教材は、後段に友情・信頼についての考えを深められる言葉が書かれている。グループに誘ってもらえた太一君のものすごく嬉しそうな様子やそんな太一君と過ごすぼくたちの喜び、今までは知らなかった太一君のよさに気付いていく姿などが描かれていて、中学年のねらいとする「友達のよさを発見する」や「友達とのよりよい関係の在り方」という価値について考えられるような魅力的な内容になっている。

そこで、後段に焦点を当て、ぼくが楽しいと感じた理由を中心に考えさせていきたい。教材を読んだ 児童は、太一のよさを生かし、協力して活動している様子から、ぼくは太一君と一緒に楽しく過ごして いたと感じ取ることができるだろう。そこから、なぜ楽しいと感じたのかを突き詰めていく中で、児童 からは「一緒に過ごしている太一君が嬉しそうだから。」や「太一君のよいところを知ることができたから。」などの意見が出て、今回設定したねらいに迫ることができると考えられる。

そして、よりねらいに迫るため、主体的に考えさせるために問い返しの発問をする。実態から分かるように児童は仲の良い友達と過ごすほうが楽しいと感じている。そこで、「本教材のぼくには仲の良いまさおくんがいるのだから、太一君を誘わない方が楽しく過ごせたのではないだろうか。」と発問する。太一君の嬉しそうな姿やぼくの笑顔からそうではないと児童は感じると予想する。そこから、自我関与しながら考えたり友達と意見を交換したりさせていくことで、「いろいろな友達と過ごすことのよさ」について考えを深めていきたい。

4 指導構想

いろいろな友達と過ごす良さ

〈教師の願い〉

○いろいろな友達と過ごすよさについて知り、これから進んでいろいろな友達と 関わろうとする心を育みたい。

事前

【道徳】 「つくればいいでしょ」 A 個性の伸長 ねらい 自分のもつ長所や短所について考え、長所を見つけようとする心情を育む。

本時

【道徳】 「あと一人だれにする」 B 友情・信頼

ねらい いろいろな友達と過ごすことのよさに気付き、関わろうとする心情を 育てる。

事後

校外学習

ねらい いろいろな友達と進んで関わり、友達のよいところに目を向けなが ら協力して過ごす。

5 本時の学習

(1) ねらい

いろいろな友達と過ごすことのよさに気付き、互いに理解し合いながら関わろうとする心情を育て る。

(2) 本時の展開

過程	児童の活動と内容 発問(○)主発問(◎)	教師の支援・留意点 支援(○)評価(◇)
導入	1 友達との関りについて話し合う。	
	○仲の良い友達とよく知らない友達。楽しく遊べ	○友達と関わっているときの時の思いを共有
	るのはどちらですか。	する。
	【仲の良い友達】	
	C:相手のことをよく知っているから。	
	C:安心できるから。	
	【よく知らない友達】	
	C:友達が増えるかもしれないから。	
	C:友達の良いところを知ることができるから。	
	○こちら(仲の良い友達)とだけ遊んでいればよ	○いろいろな友達と関わるよさについて問い
	いのかな。いろいろな友達と遊ぶよさは何です	かけ、友情・信頼について課題意識をもてる
	か。	ようにする。
展開	2 教材の前半を読む。	
前段	○「ぼく」が楽しく過ごしているかを考えながら	○登場人物の心情について考えながら読むこ
	読みましょう。	とを促す。
	○「ぼく」は、この後、太一君と一緒に活動する	○前半までの太一に対する心情を考える。
	としたら楽しく過ごせそうですか。	
	○ 「)ボノ」 かゆ) ノバ デルー・・フェ キ 老 きよぶと	○王庄 が用し始のとはについておきかがさま
	○「ぼく」が楽しく過ごせているかを考えながら	○再度、登場人物の心情について考えながら読
	続きを読みましょう。	むことを促す。
展開	3 登場人物の心情について話し合う。	
後段	◎太一君と一緒に活動していたぼくは、楽しく過	 ○ぼくの前半の心情との変化を比べることで、
12.12	ごせていましたか。過ごせていませんでした	理由を具体的に考えられるようにする。
	か。	- I I I I I I I I I I I I I I I I I I I
	【楽しい】	 ○太一君を誘う前の心情と比較させることで、
	・・・	「全員が協力できたこと」や「太一のよいと
	・太一君が笑顔だったから。	ころを知ることができたから」という、友情・
	【楽しくない】	信頼の価値に気付くことができるようにす

- ・太一君を誘わないで、他の友達と活動したかっ たから。
- ○順位が低かったのにも関わらず、笑顔で終わる ことができたのはなぜですか。
- C: みんなで楽しむことができたから。
- C:太一君のよさを知れたから。
- ○いろんな友達と過ごす良さは何ですか。
- C: 友達の良いところを知ることができる。
- C:友達が増える。

終末

- 4 ふり返り
- ○これまでの自分の考えとこれからどうなって | ○今までの経験を基に、様々な友達と関わるよ いきたいかを書きましょう。

る。

- ○勝ち負けではなく、太一の喜びや、協力でき たことが、みんなの楽しさ、笑顔に繋がった ことを押さえる。
- ○導入での、児童の意見を取り上げて発問をす ることで、今回の学習で新たに学んだことを 意識できるようにする。
- さについて考えている児童や、今後の友達と の関り方について具体的に考えている児童 の意見を全体で共有し、実践への意欲化を図 る。
- ◇いろいろな友達と過ごすとのよさに気付き、 互いに理解し合いながら関わろうと考えて いる。

新しい友達ができた

6 板書計画

友達

いろいろ友達と遊ぶよさ

- ・気が合う
- ・安心

「なかよし」|「よく知らない」



【楽しく過ごせない】

- ・勝てなさそうだから
- ・太一君がふらふらしてしまう

から





【楽しい】

- ・協力できたから
- 【楽しくない】
- ・順位がよくなかったから

いろいろな友達と遊ぶよさ

- ・友達になれる
- ・よいところを知れる